

中学校	具体的な方策
自己肯定感や学校生活・対人関係の満足度は極めて高く、「普段の生活の中で幸せな気持ちになれる」と回答した生徒は100%に達しました。また、「人の役に立つ人間になりたい」（87.5%）や「困っている人を進んで助けている」（93.8%）など、社会貢献への高い意欲が見られます。「先生は自分のよいところを認めてくれている」と全員が肯定的に捉えており、学級内でも「違う意見を言っても否定されない」という安心感のもとで対話的な学びが展開されています。	◇家庭と連携し、スマートフォンやゲームの利用時間（スクリーンタイム）の見直しや規則正しい生活習慣（朝食・就寝時刻）の定着を促します。
一方、生活習慣では「毎日朝食を食べる」割合（68.8%）が全国平均を下回っています。また、平日にスマートフォンやゲーム等を「4時間以上」利用する生徒が43.8%と全国平均を大きく上回り、長時間のメディア利用が常態化しています。	◇自立的な学習習慣を身につける指導や環境づくりを、学校と家庭が一体となって進めます。
家庭学習では2時間以上学習する生徒がおらず、読書についても「全く読書をしない」生徒（43.8%）や家庭の蔵書数が少ない傾向が見られ、家庭での学習習慣や読書習慣の確立が課題となっています。	◇学校図書室の利活用促進や家庭での読書機会の創出を通して本に親しむ環境を整え、読書習慣の定着を図ります。
	◇授業で日常的に利用しているICT機器（ほぼ毎日56.3%活用）を、単なる閲覧にとどまらず「情報を整理・活用する」高度な学びへと高めていきます。

児童生徒をより伸ばすための学校の取組み（改善策）

小学校
【国 語】 書く活動を引き続き大切にしつつ、「読み取って判断する力」の育成を一層充実させます。文章や資料のどの部分がどのような意図で書かれているのかを問い、根拠を基に自分の考えや理由を説明する学習活動を充実させます。また、目的に応じて必要な情報を見付ける活動を、調べ学習や端末を用いた情報収集の場面にも位置付けます。
【算 数】 答えを求めるまでの考え方や理由を、言葉や式を使って説明する学習活動を引き続き充実させます。課題である割合の意味理解については、数直線や図を用いて基準量・比較量・割合の関係を捉える活動を繰り返し行います。概数や小数の計算の定着には、日々の家庭学習や小テストを活用します。
中学校
【国 語】 辞書を活用した語彙指導を日常的に取り入れ、単なる暗記ではなく文脈上の意味を捉えて適切な表現に言い換える活動を強化します。また、書き手・読み手の視点に立った「推敲」のプロセスを授業内に位置付け、ワークシート等を活用して他者からの助言を基に自らの文章をよりよく改善する力を育てます。他教科とも連携し、目的や相手に応じて情報を整理・要約し伝える指導を推進します。
【数 学】 苦手意識の強い図形領域について、ICT機器（デジタル教材等）を用いて図形の性質や平行条件を視覚的に捉え直させます。証明問題では「仮定」と「結論」を明確にし、段階的に論理を組み立てる指導（スモールステップ化）を行うとともに、記述の型（テンプレート）を提示して説明力を高めます。累積度数などの統計用語は、身近なデータを活用した繰り返し演習により定着を図ります。
【英 語】 単語の聞き取りだけでなく、接続詞や文章全体の流れに着目して「要点や概要を掴む」活動（マッピング等の活用）を強化します。社会的な話題に対する意見記述では「主張＋理由＋具体例」のフレームワーク（記述の枠組み）を導入して表現力を磨くほか、ペアワークでの即興的なスピーチやクイックライティングを通して、まとまりのある英文を書く習慣を定着させます。

豊頃町の児童生徒の学習・生活の充実のために

- ・学校では、基礎的・基本的な学習内容の確実な習得に努めるとともに、これを基盤とした「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を推進し、特に記述力を含む思考・表現力の向上を重点的に図ります。また、教職員がより児童生徒に向き合う時間を確保できるよう、ICTを活用した校務の効率化を推進します。
- ・家庭では、学校と連携・協力し、良好な「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣を維持していただきます。また、家庭学習の習慣化に取り組み、テレビやゲーム、動画視聴時間と学習や読書の時間のバランスを見直していただくようご協力をお願いいたします。
- ・地域では、学校行事や日常の活動場面において、積極的に活動している子どもたちへの温かい励ましと、学校の教育活動への更なるご協力をお願いいたします。

小学校
国語 ◇「知識及び技能」の領域は全国平均を大きく上回り、漢字の使用や情報の関係を整理する力の確かな定着が見られます。 ◇記述式問題は全国平均を上回り、引用しながら自分の考えを書く力、読んで考えたことを自分の経験と結び付けて書く力は、本町児童の強みの一つといえます。 ◇一方、文章の構成や展開の工夫を捉える、必要な情報を見付けるなど、選択式で問われる「読み取って判断する力」のさらなる育成が求められます。
算数 ◇「思考・判断・表現」の観点、とりわけ記述式問題が全国・全道平均を大きく上回り、わけや求め方を言葉や式を用いて説明する力が身に付いています。 ◇「図形」の領域は全国平均を上回り、体積や直方体の構成についての理解が図られています。 ◇一方、「変化と関係」の領域が全国平均を下回るなど、割合の意味理解や、概数・小数の計算といった技能面に課題が見られます。

中学校
国語 ◇「話すこと・聞くこと」の能力や「思考・判断・表現」の観点は全国平均を上回り、話し合いの内容を捉える力や気持ちを伝える表現の工夫に優れた成果が見られます。 ◇国語の記述問題では「最後まで書こうと努めた」生徒が87.5%（全国平均72.4%）に上り、粘り強く考える姿勢が定着しています。 ◇一方、「知識・技能」の定着に課題があり、文脈に応じた語句の捉え方や、助言を踏まえて自分の文章を改善・推敲する力に課題が残ります。
数学 ◇「数と式」領域や、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する力が充実しており、度数分布の比較と理由説明の問題でも全国平均を大きく上回りました。 ◇一方、「図形」の領域（三角形の合同証明や平行条件）が全国平均を大きく下回ったほか、累積度数の求め方など統計の基本概念の定着や、数学的な解決プロセスの説明に課題が見られます。
英語 ◇置かれた状況から必要な情報を聞き取ったり読み取ったりする力、過去の出来事や自分のやりたいこととその理由を説明するライティング力に成果が見られます。 ◇一方、話や文章の全体的な概要・要点を捉える問題や、社会的な話題（インターネット利用等）に対して自分の意見とその理由を英語で表現する問題に課題が見られます。

学習習慣や生活習慣の傾向 ～児童生徒質問紙調査から～

小学校	具体的な方策
「基本的な生活習慣」については、朝食や起床の時刻に関する項目が全国平均を上回り、良好な状況がうかがえます。一方、就寝の時刻に関する項目は全国平均をやや下回っており、就寝時刻を整えることについては、引き続き家庭との連携が大切になります。	◇家庭学習の手引きの活用や端末の持ち帰りを通して、家庭との連携を深めながら家庭学習の充実を図ります。
自己肯定感や学校生活への満足度に関する項目では、「自分には、よいところがある」、「先生は、自分のよいところを認めてくれている」のいずれについても、すべての児童が肯定的に回答しました。いじめは許されないという意識も全国平均を大きく上回っています。児童が自分のよさを実感しながら、安心して学校生活を送っている様子がうかがえます。	◇「今日は何を、どのように学ぶか」を児童自身が決める場面を授業に位置付け、自分で学び方を考える力を育てます。
学習の様子では、算数の授業で自分の考え方を説明する活動をよく行っていたと答えた児童が全国平均を大きく上回っており、記述式問題での成果は、日常の授業における継続的な取組の成果の一つと考えられます。	◇総合的な学習の時間などで、自分で課題を立てて調べ、まとめて発表する活動を充実させ、自ら学びを進める力を育てます。
一方、分からないことがあったときに自分で学び方を考え工夫することについては、全国平均を下回りました。平日の家庭学習の時間も全国平均を下回っており、自ら学び方を工夫する力を育むことや、家庭学習を充実させることが今後の重要な取組となります	◇ご家庭では、就寝時刻を決めて生活のリズムを整え、学習や読書に取り組む時間を確保できるよう、ご協力をお願いいたします。